論理国語　単元指導計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 令和〇年〇月〇〇日（〇） | 場所 | ２年○組教室 |
| クラス | ２年〇組（〇〇人） | 授業者 | ○○　○○ |
| 科目名 | 論理国語 | 単元名 | 評論Ⅳ　テクノロジーの開く世界 |
| 使用教材 | 「ロボットは心を持つか」（黒崎　政男）参考「そもそも心とは何か」（石黒　浩） | 使用教科書 | 探求　論理国語（桐原書店） |
| 教材観 | 本教材は「ロボットは心を持つか」という現代的なテーマを扱った評論である。急速に科学が進歩しAI（人工知能）の開発も進む現代において、このテーマは避けて通ることができないものであるともいえる。「人間」と「ロボット」とを比較しながら論じていく中で、「俳句」などの具体例を用いながら「心」そのものに対する筆者の考え方を述べていく。「そもそも心とは何か」という根本的な点に目を向ける中で、哲学的な思考法についても学ぶことができる。また、「ロボットに心はない」と考える筆者に対し、「ロボットは心を持つようになる」と考える別の人物の評論を読み比べ資料として用いながら、多角的な視点で学習を進めていきたい。 |
| 生徒観 | ほぼ全ての生徒が大学進学を目指して意欲的に学習を進めており、授業の理解度も高い生徒が多い。文系選択者のクラスであり、国語の授業に対して非常に前向きに取り組んでいる。これまでの授業では、本文を読解したのちにその内容を自身の体験などと結びつけたうえで論述する活動を複数回行っている。本文のテーマに対する自身の理解を深めるとともに、クラスメイトとの交流を通し多様な意見に触れることを大切にしながら授業を展開する。 |
| 指導観 | 本単元では、「ロボットに心はあるか」という問題に対し、自分の立場を明確にし根拠をもって論述できるようになることを目指す。「そもそも心とは何か」という哲学的な視点を持つことで、「心」に対する考え方が変われば、「ロボットに心はあるか」という問題に対する考え方が変わることにも気づかせたい。また、ここ二、三十年の間にコンピューターや人工知能（AI）をめぐる事態は大きく変化してきている。情報化社会に生きる現代人が目を向けるべき問題として、「ロボット」と「心」の問題について改めて考える機会としたい。 |

１　単元の目標

1. 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔知識及び技能〕(1)イ
2. 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ

(３)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の言語活動

筆者とそれに反論する人物のそれぞれの主張と論拠を踏まえ、多面的・多角的な視点から自分の立場を見直し、根拠をもって明確に論述する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ）

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句や知識に対する理解を深めようとしている。

　　　　　　((1)イ) | 1. 多面的・多角的な視点から自分の考え方を見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしようとしている。　　　　　(B(1)エ)
 | 1. 論述を通して自分の考えが根拠を持って述べられるよう、説明の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。
 |

４　指導と評価の計画（全６時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
| １ | ・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しを持つ。・「ロボットは心を持つか」という本文のテーマに対し、自分の考えを持つ。ワークシート①を使用。・本文の通読をし、段落分けを行う。 | 〔思考・判断・表現〕① | 「記述の確認」 |
| ２ | ・第1～２段落の読解 | 〔知識・技能〕① | 「記述の確認」 |
| ３ | ・第３～４段落の読解 | 〔知識・技能〕① | 「記述の確認」 |
| ４ | ・第５～６段落の読解 | 〔知識・技能〕① | 「記述の確認」 |
| ５本時 | ・読み比べ教材「そもそも心とは何か」を読み、筆者と反対の立場を取る他者の意見を理解する。ワークシート②を使用。・「心とは何か」に対する様々な視点を学んだ上で、「心」の定義付けをする。 | 〔思考・判断・表現〕①〔主体的に学習に取り組む態度〕① | 「記述の確認」 |
| ６ | ・「ロボットは心を持つか」に対する二つの立場のどちらに立つか、改めて自分の考えを論述する。ワークシート③を使用。 | 〔思考・判断・表現〕①〔主体的に学習に取り組む態度〕① | 「記述の確認」 |

【単元の流れ】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| １ | ・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。・「ロボットは心を持つか」という本文のテーマに対し、自分の考えを持つ。ワークシート①を使用。・イラストを元に、心をもつ存在とそうでない存在について考える。 | ・本文を読む前と後における、自分の意見の変化（深化）を確認することを意識付けする。・MetaMoJi ClassRoom上のワークシートに記録させる。 | 〔思考・判断・表現〕①・「記述の確認」 |
| ２ | ・第1～２段落の読解 | ・第１～２段落の読み取りを行い、筆者の立場を理解させる。・「二項対立」で示される「日本」と「キリスト教世界」との考え方の違いを理解する。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」プリント・記載内容を点検する。 |
| ３ | ・第３～４段落の読解 | ・第３～４段落の読み取りを行い、筆者の「心」の捉え方を理解する。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」プリント・記載内容を点検する。 |
| ４ | ・第５～６段落の読解 | ・第５～６段落の読み取りを行い、「俳句」が具体例として用いられている意図を捉え、「作者の心情」について理解する。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」プリント・記載内容を点検する。 |
| ５本時 | ・本文のまとめを行い、筆者の立場とその根拠をまとめる。・読み比べ教材を読み、筆者と反対の立場を取る人物の考えをまとめる。ワークシート②を使用。・ChatGPT3.5作の演劇の台本を利用し石黒氏の主張を具体的にイメージする。・「心」の定義付けをする。（MetaMoJi ClassRoom） | ・「ロボットは心を持つか」という問いに対する両者の立場と根拠をまとめる。・「心とは何か」という問題には、様々な考え方があることを理解する。・抽象的な表現を具体的にイメージできるようにする。・「心」に対する様々な考え方を学んだ上で、自分なりの「心」の定義付けをする。 | 〔思考・判断・表現〕①「記述の点検」レポート・MetaMoJi ClassRoomのワークシート〔主体的に学習に取り組む態度〕①「記述の分析」MetaMoJi ClassRoom→〔主体的に学習に取り組む態度〕は第６時の言語活動の分析と合わせて評価をする。 |
| ６ | ・前時の学習を踏まえ、「ロボットは心を持つか」に対する二つの立場のどちらに立つか、改めて自分の考えを論述する。ワークシート③を使用。 | ・異なる両者の意見を踏まえて、自分の意見を深化させることができているかを意識付けする。 | 〔思考・判断・表現〕①「記述の分析」レポート・多面的・多角的な視点を取り入れることができているかに注目し、レポートを分析する。〔主体的に学習に取り組む態度〕①「記述の分析」レポート・授業の前と後で自分の意見を深化させることができているかに注目し、レポートを分析する。 |

≪本授業における評価の実際≫

５　観点別学習状況の評価の進め方

(1)［知識・技能］の評価

[知識・技能]①の「論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句や知識に対する理解を深めようとしている」状況を、「新出語彙や、わからない単語等を自ら確認し、本文のテーマに対して複数の考え方があることを理解した上で、筆者の主張を正しく読み取っている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ノートへの記述を中心に、レポート等も点検して評価する。

本文の読み取りができていない状況をCと捉え、個別に声をかけて、ヒントとなる本文の記述を示す、語句の意味を隣同士共有するなどし、読み取りを行うよう促す。

(2)［思考・判断・表現］の評価

[思考力・判断力・表現力等]①の「『書くこと』において、多面的・多角的な視点から自分の考え方を見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしようとしている」状況を、レポートの清書において、『ロボットは心を持つか』というテーマに対し、筆者とそれに反対する人物の意見を適切に踏まえている」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、レポートの記述を分析し評価する。本文と読み比べ教材における主張を踏まえることができない状況をCと捉え、周囲との意見交流を通して読み取り内容を確認するよう促す。

(3)［主体的に学習に取り組む態度］の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「論述を通して自分の考えが根拠を持って述べられるよう、説明の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「レポートの清書において、『ロボットは心を持つか』というテーマに対し、授業前と授業後において意見を深化させている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、レポートの記述を分析し評価する。

本単元を基に多面的・多角的な視点から自分の考え方を見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりできていない状況をCと捉え、ワークシートにまとめた筆者の主張を踏まえて書くように促す。

６　学習指導案(５時間目/全６時間)

本時の目標：ア．筆者とそれに反論する立場の人物の主張を比較することで、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりするための視点を得ることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

言語活動：MetaMoJi ClassRoomを活用し、「心」に対する様々な捉え方を確認をする。

　　　　　　　MetaMoJi ClassRoomを活用し、「心」とはどのようなものかを改めて考えて定義付けをする。

本時の展開：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
| 導入１０分 | □これまでに学んだ「心」に対する考え方を振り返る。 | ・本時の位置づけを説明（（PowerPoint用資料スライド１）・「どの存在が心を持つか」をMetaMoJi ClassRoom上のワークシートに分類。「キリスト教世界」「日本人」「筆者（黒崎）」・指名し、発表させる。 | ・ペアワーク・MetaMoJi ClassRoom上に記入させる。 |
| 展開①２５分 | □形式段落７より筆者（黒崎）vs石黒の構図を確認する。□石黒が「（ロボットに）そのうち心が生じる」と考える根拠を確認する。 | ・指名により形式段落７を音読する。・本文と読み比べ教材との関係を確認する。・読み比べ教材「そもそも心とは何か」を指名形式で音読する。・石黒氏の「心」の捉え方を読み取る。ワークシート②への記述。→「心とは、人間が人間どうしや、人間とロボットの相互作用を見て感じる、主観的な現象である」の部分について、理解を深める。・石黒氏の心の定義について具体例を交えながらイメージする。→ChatGPT3.5作（PowerPoint用資料スライド２）の演劇の台本を利用。→感情を相手に伝える要因には「表情」「声のトーン」などがあることに気づかせる。 | ・ワークシートの確認・石黒が考える「心」について正確に把握する。・石黒の「心」の捉え方が、「ロボットは心を持つ」という主張につながることを理解させる。・「怒り」などの感情を見ている人に感じさせる要因を、具体的に分析させる。 |
| 展開②１０分 | □「心」をどのようなものと捉えるかについて再度考え、各個人で定義づけをする。 | ・第１時で使用したMetaMoJi ClassRoomのワークシートを振り返る。本文を読解した後の自分の考えをまとめる。「人間」「動物」などのイラストを提示し、心を持つ存在と持たない存在に分類。　本文読解前後における「心」に関する捉え方の変化（深化）を記述する。 | 【目標アに対する評価規準と評価方法】規準：「心」に対する多面的・多角的な考えを持つことができている。方法：「記述の分析」（MetaMoJi ClassRoom　　のワークシート）〔目標ア達成のための手立て〕・作者やクラスメイトの意見を踏まえ、考えを深める。 |
| まとめ５分 | □クラス全体での意見交流 | ・MetaMoJi ClassRoomを利用し、クラス全体で意見の交流をする。 |  |